

# 開港の

# ひろば

YOKOHAMA  
ARCHIVES  
OF  
HISTORY

Number

158

横浜開港資料館  
発行日 / 2025(令和7)年3月4日



free word...

詳細検索

+

## 特集 デジタルアーカイブ

<https://yokohama-archives.jp>



こちらからもアクセスできます

編集・発行 / 横浜開港資料館  
〒231-0021 横浜市中区日本大通3 電話 (045) 201-2100  
ホームページ <http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

p.2-3

デジタルアーカイブで広がる歴史資料の世界

p.4-5

デジタルアーカイブで閲覧できる資料群

p.6

ミニ展示「黒船接近!絵図にみる幕末の海防体制」

ミニ展示「ペリー艦隊の測量とモーリー大尉の日記」

p.7

閲覧室より「横浜港出入船の調べ方」

p.8

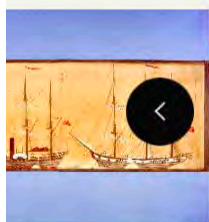
資料館だより

# デジタルアーカイブで 広がる歴史資料の世界

## PICK UP ARCHIVE

ピックアップアーカイブ

ペリー—横浜来航170年



絵巻  
Ab6-02-007



【ペリー提督・横浜上陸の図】  
【請求番号】 Ab6-03-030



北亞墨利加人物ペリリ像  
【請求番号】 Ab3-13-001



北亞墨利加洪和政治州上官真像之写  
【請求番号】 Ab3-13-002



合衆國水師提督口上書  
【請求番号】 Ab3-13-008

「ピックアップアーカイブ」画面

横浜開港資料館では収蔵資料の情報をより多くの方と共有するため、令和六（二〇二四）年一月一〇日（水）、デジタルアーカイブを公開した。古文書・写真・絵葉書・絵地図・浮世絵・絵画・図書・雑誌・新聞など多種多様な資料約二〇万点（二〇二五年一月時点）の情報に、いつでも、どこでも、アクセスできるようになった。今回の特集では「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」の特徴と操作方法について、資料群ごとに紹介していく。

近年、文化施設を取り巻く環境は大きく変化している。平成三一（二〇一九）年に文化財保護法が改正され、文化財の積極的な活用が求められるようになり、令和二（二〇二〇）年には「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光推進法）が施行され、文化観光拠点施設を中核とした観光の振興や地域の活性化を図るためにデジタルアーカイブを制作・公開する施設は増加傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症流行による外出自粛も相俟って、自宅やスマートフォンからアクセス可能なデジタルアーカイブの制作・公開は当館が取り組むべき事業課題となっていた。

そうした中、令和三（二〇二二）年五月、横浜開港資料館を中核として山下公園、元町、中華街エリアの文化観光拠点化を推進していく「横浜開港資料館における

文化観光拠点計画」が文化庁に認定された。「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」はこの事業の一環として制作・公開したものである。「横浜開港」に関する資料の魅力を発信する基盤を創ることで国内外からの多様な利用者の利便性向上に寄与し、当館や伝統的観光地エリアの来訪の期待感高揚、「横浜らしさ」につながるアイデンティティの形成、調査研究の推進に繋げていくことがデジタルアーカイブ活用の目指すところである。

デジタルアーカイブ制作にあたってはプロポーザルにて委託先を選定した。全体の統括を大日本印刷株式会社（DNP）、フロントサイトの設計を株式会社DNPメディアアテートが担当し、六〇〇超（二〇二四年八月末時点）の国内館が導入する早稲田システム開発株式会社の「I.B.MUSEUM SaaS」を収蔵品管理システムとして利用することになった。

デジタルアーカイブはトップページから手軽にフリーワード検索できる仕様となっている。さらに利用者の多様な目的や属性に対応するため、直観的な操作で利用可能なワンクリック検索のボタンをフロントサイトに設けた。①写真アルバム・浮世絵・絵葉書・絵地図などの種別から資料を探したい利用者は「資料種別」に応じて、②ペリー来航・横浜開港場・関東大震災などのストーリーに基づいて資料を探し



資料種別・テーマ検索画面



「マップで探す」画面



「資料詳細」画面

たい利用者は「テーマ」に応じてワンクリックで検索できるように設計している。さらに下にスクロールすると、「マップで探す」ボタンが表示される。それをクリックすると関内地区周辺の地図が表示され、エリアごとに関連画像を確認することができる。より詳しく、項目・条件別に検索したい場合は「詳細検索画面」を活用していただきたい。

キーワードを入力して検索ボタンをクリックすると、検索結果一覧が表示され

る。さらに右側の「詳細情報」ボタンをクリックすると、請求番号を始めた資料一点ごとの詳細情報を確認できる。画像が表示されている場合、画像下の拡大表示ボタンをクリックすれば資料画像拡大ビューアが開き、細部にわたって画像を見ることが可能である。

来館の動機となるコンテンツを整備するため、フロントサイトには「PICK UP ARCHIVE(ピックアップアーカイブ)」を設けた。時節に応じたテーマを設定し、

関連資料を紹介することでアクセス動機の上につなげていきたいと考えている。

令和四(二〇二二)年四月、「博物館法の一部を改正する法律」が成立し、デジタルアーカイブの制作と公開が博物館事業の中に位置付けられた。利用者の利便性を高め、各施設が収蔵する資料の魅力を広く発信するためである。「横浜開港資料館デジタルアーカイブ」では随時データを更新し、利用者一人一人が新たな歴

史資料と出会う機会を創出していく。研究・教育・商品開発・史跡散策など、活用方法は無限である。デジタルアーカイブを通じて歴史資料の世界に浸ってみてはいかがだろうか。

(神谷大介)

# デジタルアーカイブで 閲覧できる資料群

## 海外の文献資料

当館蔵書の文献資料「洋書」及び個人コレクション「ブルーム・コレクション」などには、一七世紀のイエズス会宣教師による報告書をはじめとした稀覯本が多数あり、こうした貴重な本もデジタルアーカイブで検索し、閲覧室にて閲覧することができ（資料保存のため一部複製本や復刻本での閲覧もある）。

洋書のなかでも、『ペリー艦隊日本遠征記』（以下、『遠征記』と表記）はアメリカ側における日本遠征の公式記録であり、アメリカの議会資料として上院版と



図1 「ペリー艦隊日本遠征記」(上院版)挿絵



図2 「ペリー艦隊日本遠征記」(上院版)挿絵

下院版が刊行され、日本開国を知うえて貴重な資料である。当館では上院版と下院版の両方を所蔵している。その第一巻にはペリー艦隊が遠征中の記録としてW・ハイネをはじめとした画家たちが描いた挿絵が入っている。日本関係の挿絵は、ペリー艦隊の様子や寄港地の風景だけでなく、外国人から見た当時の日本の風俗を知る手がかりとなる。令和六(二〇二四)年がペリー提督・横浜来航一七〇周年にあたり、当館で開催されたハイネ原画「ペリー提督・横浜上陸の図」(石版画)の特別公開に併せて、上院版の第一巻に掲載の挿絵二四六点

をデジタルアーカイブで公開した(図1、2)。

閲覧にあたってはページトップのフリーワードに「ペリー日本遠征記」と入力し、条件による絞り込みで「画像有」を選択すれば全点を見ることができ。挿絵には『遠征記』への掲載順に番号を振り、タイトルは挿絵に表記があれば原文を掲載し、内容・主題に訳文を入れている。タイトルがないものは「挿絵」とし、制作・差出には画家名を記載している。

当館が所蔵する『ペリー艦隊日本遠征記』上院・下院版は必ずしも状態が良いとは言えない。同資料がペリー艦隊の動向や日本開国の実態を知る上で貴重な資料であり、第一巻挿絵をデジタルアーカイブで閲覧できるようにすることで、ペリー艦隊の日本遠征の記録を誰もが見ることができるようになった。引き続き第二巻の挿絵も公開する予定であり、今後も洋書に限らず『ジャパン・パンチ』などの洋雑誌など貴重な資料の挿絵等を公開していくつもりである。

(白井拓朗)

## 古写真

当館は幕末から明治にかけて撮影された古写真を多数所蔵している。安政六(一八五九)年の開港以降、横浜には外国人居留地が形成され、フェリーチエ



図3 横浜の日本人町

当館所蔵の浮世絵・瓦版資料は、漫然と網羅的に集めるのではなく、他の収蔵史料と密接な関連をもち、互いに相補うような種類のものに限定して収集されている。具体的には①「ペルリもの」、「黒船もの」などと呼ばれる開国期の瓦版、②開港期の

### 浮世絵・瓦版資料

古写真の高精細撮影をおこない、そのデータをデジタルアーカイブで公開することによって、私たちは幕末明治の日本に生きた人々の生活空間を事細かに観察できるようにになった。ぜひご活用いただきたい。

(吉崎雅規)



図4 三代歌川広重画「横浜海岸鉄道蒸気車図」明治5(1872)年頃

これらの浮世絵は各地に文明開化を伝えるメディアとしての役割を果たしており、活気に満ちた開港場の様子を現在に伝えている。デジタルアーカイブを通じて当時の雰囲気を感じていただければ幸いです。

(西村 健)

ベアト、チャールズ・パーカーなど西欧のカメラマンがスタジオを構える。一方、日本人の町にも岡蓮杖、鈴木真一など日本の写真師が写真館を開いた。なかでも、文久三(一八六三)年に来浜したベアトの写真には、横浜・江戸を中心に日本各地の風景や幕末期の政治・社会情勢を写し取ったものが含まれ、歴史資料としての価値が高い。今回、ベアト写真の一部について高精細撮影をおこない、デジタルアーカイブで公開することにした。

たとえば、「横浜の日本人町」(図3)

を見てみよう。詳細な撮影地点は不明だが、横浜の運河に面した日本の伝統的な家屋を写している。画面中央には和船が三艘、家屋から突き出るように係留されており、アーカイブのビューワーを拡大していくと、和船の構造の細部までつぶさに観察できる。さらに、船の上側の家屋の二階部分には格子窓がはめこまれており、窓の左には物干し台だろうか、洗濯物が架けられているのが見える。その左の家屋に目を転じると、陽射し除けの布をつつかえ棒で取り付けているのうかがえるだろう。

「御貿易場」瓦版や横浜浮世絵、③明治初期の横浜関係開化錦絵に分類され、これとは別にブルーム文庫に含まれる歌川貞秀コレクションがある(『横浜開港資料館所蔵 瓦版・浮世絵目録』)。現在、当館では浮世絵一・二・九点、瓦版三・三二点を所蔵しており、報道機関や

教育現場などで広く利用されている。デジタルアーカイブでは、ページトップの「資料種別から探す」項目から「浮世絵」のボタンをクリックすると、館蔵資料の多くが画像付きで閲覧できる。また、「テーマで探す」項目から「ペリー来航」や「横浜開港場」などのボタンをクリックするとそのテーマに応じた浮世絵を一挙に閲覧することも可能である。

# 黒船接近！ 絵図にみる幕末 の海防体制

2024(令和6)年

8月16日(金)～

11月21日(木)

二展示

横浜開港資料館が所蔵する絵図を通して、異国船に対峙するために構築された幕末の海防体制について紹介しました。

一九世紀、ロシアの南下政策や西洋諸国のアジア進出によって、日本近海には異国船(黒船)が頻繁に姿を現わすようになりました。幕府はあいつぐ異国船来航事件に対応するため、文政八年(一八二五)二月、異国船打払令(無二念打払令)を発し、沿岸に近づく異国船を見かけたならば、迷うことなく砲撃を加えるように命じます。

しかし、隣国の清がイギリスに敗北したアヘン戦争に関する情報が伝わり、幕府は天保一三年(一八四二)七月、打払令を改め、薪水給与令を発しました。この天保薪水給与令のもと、異国船発見時の対応は、まず来航目的を確認し、食料・薪・水などに乏しい



図 「豆州相州武州上総下総房州海陸御固御場所附」 幕末 当館所蔵

三浦半島から房総半島一帯の海防体制を描いた絵図。海防の拠点である台場・陣屋の配置が□で示され、対岸までの距離が記されています。

様子であれば希望する品物を与えて退去せよという方式に変更されました。ただし、異国船が不法行為に及んだ場合は速やかに打ち払いを実行し、臨機応変に対応することが警備担当の武士たちには求められました。そうした中、江戸近海にはさまざまな台場(砲台)や陣屋(兵営)が建設され、諸大名が配置されました。台場、陣屋、大名の配置などは絵図として表現され、世に広まっていきました。

(神谷大介)

# ペリー艦隊の 測量とモーリー 大尉の日記

2024年11月22日(金)～

2025(令和7)年

2月21日(木)

今回のミニ展示では、当館所蔵のウィリアム・L・モーリー大尉直筆の日記や書簡を展示し、ペリー艦隊の様子や測量士官が果たした役割を紹介しました。

ペリー艦隊の航海を支えたのがモーリー大尉をはじめとした測量士官でした。長い航海を経て日本に到着した彼らですが、江戸湾(現在の東京湾)は当時、欧米諸国にはまだ知られていない海域となっていました。艦船が安全に航行するためには湾内の水深を把握することが必要で、モーリー大尉たち測量士官は短艇に乗船し、幕府の船が監視するなか測量を行いました。ペリー提督は江戸湾の測量を強行することにより、幕府に圧力を加え、条約交渉の席につかせることができました。モーリー大尉の日記には測量中に初めて見るアメリカ人に日本の庶民が興味をもっていた様子が記されています。また、ペリー提督からモーリー大尉宛の書簡で、艦隊に必要な不可欠な石炭を運ぶように指示されます。『ペリー艦隊日本遠征記』にはモーリー大尉が指揮する石炭運搬船が無事に琉球(現在の沖縄)に到着したのか、ペリー提督が気にかけていたことが記され、モーリー大尉の任務が重要であったことがわかります。

ペリー艦隊に参加した人々の記録は公刊されたもので二〇冊ほどあり、未公開の記録もまだあります。令和六(二〇二四)年はペリー提督横浜来航一七〇年の節目にあたり、モーリー大尉の直筆日記や書簡から改めてペリー艦隊の測量士官の活動に目を向けました。

(白井拓朗)



図 ハイネ原画「ルビコン川」石版画(部分拡大)、『日本遠征画集』(1855年)、当館所蔵



図 「横浜棧橋」(絵葉書)、当館所蔵

## ◆はじめに

当館の閲覧室には当館所蔵資料や横浜の歴史についてのさまざまな問い合わせが寄せられます。当館ではそれらをレファレンスと呼び、閲覧室業務の1つと捉えています。そのレファレンスのなかでも横浜が開港してから横浜港に出入した船及び横浜を訪れた人物の記録を探しているという問い合わせが多く寄せられます。今回は閲覧室で横浜港に出入していた船や来(横)浜者の記録を調べる方法を簡単ではありますが紹介します。

## ◆新聞から調べる方法

横浜は新聞発祥の地として、横浜にあった外国人居留地に住む外国人向けにいくつもの新聞が刊行され、新聞に船の出入記録が記載されていました。そこで幕末と明治以降の期間に分けて調べ方を紹介します。まず、幕末期には、まだ横浜で新聞の刊行が定着してはおらず、中国で発行された新聞The North-China Herald(閉架:請求番号SYC-N002)やThe China Mail(閉架:請求番号SYC-C002)から、上海や香港から横浜行の船名を調べることができます。明治以降になると横浜でも外国人向けの新聞が発行されThe Japan Weekly Mail(開架:請求番号SYC-J009)やThe Japan Gazette(開架:請求番号SYC-J003)に横浜港への出入船及び来浜者名が記載されています。以上の新聞を調べる際には開架と表記のものは閲覧室に開架されていますので、自由にご覧ください。閉架のものは「入室・閲覧票」に請求番号と該当する号を記載して受付に出して下さい。

## ◆書籍及び他機関で調べる方法

書籍ではいくつかあるなかで、立山一郎著『北太平洋航路シッピングリスト 1878～1895』(請求番号693.2-14-1)、同著『横浜上海航路シッピングリスト 1876～1896』(請求番号693.2-14-2)が参考になるかと思います。両書は、閲覧室に開架されていますので、「入室・閲覧票」への記載は不要です。

横浜を訪れた外国人や自身の先祖が渡航した記録を探しているという問い合わせも多く寄せられます。しかし、当館には個人の渡航記録に関する資料を所蔵しておりません。新聞にもすべての来浜者の名前が記載されているわけではありません。他機関で調べる方法として、東京の外交史料館には幕末から昭和戦前期にかけての渡航記録があります。まず、同館の活動報告「海外渡航記録の調べ方」(インターネットで公開)を調査の前に参照していただき、実際に外交史料館で調査してみたいかどうか。

## ◆おわりに

横浜は開港後に世界の玄関口となり、国際色豊かな港湾都市として発展してきました。開港以来、外国人居留地があり、玄関口として多くの外国人が訪れたことは横浜の特色と言えます。当館閲覧室では引き続き横浜の歴史を研究・調査する方々のために資料の収集・保存の活動を行っていきます。

(白井拓朗)



## 資料公開

「旧根岸競馬場一等馬見所」の歴史的建造物認定を記念して、当館が所蔵する関連資料を公開いたします。

会期:2025年4月12日(土)~5月11日(日)

入館料:一般400円

小・中学生/横浜市内在住65歳以上200円



一等馬見所と二等馬見所(当館蔵)

## 特別展報告

2024年11月に終了した「外国奉行と神奈川奉行一幕末の外務省と開港都市」にて開催した関連企画のご報告です。

○トークライブ「幕末の外交官を深掘りする！」

日時:2024年10月9日(水)開催

小野将氏(東京大学史料編纂所准教授)と福岡万里子氏(国立歴史民俗博物館准教授)、2人の先生をお招きし、トークライブを開催いたしました。



○まち歩き「神奈川奉行所ゆかりの地を歩く」

日時:2024年11月13日(水)開催

横浜開港資料館から京急「戸部駅」付近までの運上所跡・神奈川奉行所跡など

神奈川奉行所に関する史跡を巡るまち歩きを開催しました。



## 寄贈資料

・小川雄一コレクション 245点  
(小川雄一氏)

## 「横浜もののはじめ考」再販

第3版が売り切れてから長らくお待ちいたしました。「もののはじめ」の集大成、当館人気書籍「横浜もののはじめ考」が新装第4版として再販しております。

A4判 188ページ 2,200円(税込)

## 「たまくすの木」周辺に バリアフリーデッキ 完成予定!

クラウドファンディングにてご支援いただいた「たまくすの木(横浜市地域史跡)」周辺に設置するバリアフリーデッキが4月に完成予定となりました!

## コンテスト大賞作品「たまくすの木ロイヤルミルクティーのミルフィーユ」販売開始!

2023年に開催したミュージアムグッズデザインコンテストスイーツ部門大賞作品であるミルフィーユが商品化、PORTER'S LODGEにてお楽しみいただけます。



## PORTER'S LODGEにて オリジナルグッズ販売中!

ドリップパックコーヒーやマスキングテープなど当店でしか買えないPORTER'S LODGEオリジナルデザインのグッズが続々と販売開始しております。おみやげにぜひお買い求めください。



### 横浜開港資料館 利用案内

開館時間 9:30~17:00(入館は16:00まで)  
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始ほか  
入館料 一般200円 小・中学生/横浜市内在住65歳以上100円  
\*特別展開催時は入館料は別に定めます。

### 閲覧室の利用について

事前予約制(先着順)です。閲覧希望日当日(の開室時間中)までに、電話で予約してください。  
開室時間 10:00~12:00 13:00~16:00  
休室日 月曜日・火曜日(祝日の場合は翌日)、資料整理日(毎月第4金曜日)、年末年始ほか  
利用料 100円(閲覧室のみご利用の場合)  
電話番号 045-201-2150(直通)

### ミュージアムショップ・カフェ PORTER'S LODGE

営業時間 9:00~17:00(カフェラストオーダー16:30)  
店休日 開港資料館に準じます

### アクセス

みなとみらい線「日本大通り」駅4番出口から徒歩2分  
JR関内駅(南口)、市営地下鉄関内駅から徒歩約15分  
JR桜木町駅から市営バス「日本大通り駅県庁前」下車徒歩1分

### ホームページ

<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

X(旧twitter) @yoko\_archives

Instagram @yokohama\_kaikou

管理運営団体 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団



\*今後の状況により変更する場合があります。最新情報は、当館ホームページ・お電話でご確認ください。